令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　池田　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

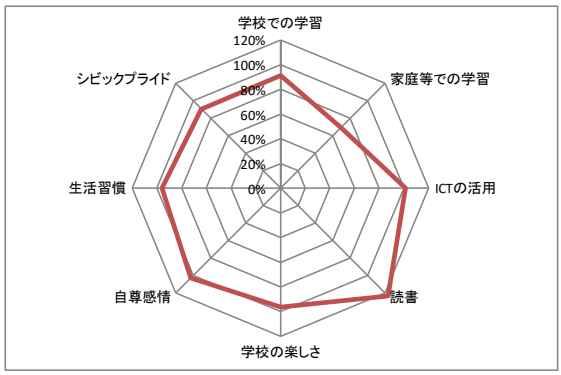
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの問題で正答率が全国平均を下回っていたが、漢字を書く問題については全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの問題で正答率が全国平均を下回っており、無回答率も全国平均に比べて高い問題が多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	正三角形の意味や性質について答える問題	
	努力が必要な問題	小数の加法や乗法を用いて、求め方を式や言葉を用いて記述し、条件にあてはまるかを判断する問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「友達関係に満足しているか」の問いに対し、９０％以上の児童が肯定的に回答している。
・「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対し９０％以上の児童が肯定的に回答しており、自尊感情も高くほとんどの児童が学校へ通うのが楽しいと感じていることがわかる。
・「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童の割合が低かった。家庭学習が習慣化するよう、自主学習ノート等の利用や宿題の内容を工夫していくことが必要である。また、家庭学習の大切さについて保護者へ呼びかけを行っていく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

週４回のドリルタイムを活用することで、漢字や計算等の基礎的な学習は身についている。しかし、文章を読み目的を意識して要約したり、必要な情報を見つけたりすることや、式や言葉を用いて記述することに課題がある。国語科の授業を中心に「学びの質を高める」授業づくりを行い、「読む」力を身につけさせていく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

自尊感情が高く、学校に楽しく通っている児童が多い。しかし、家庭学習を計画的に行っている児童の割合が低く、家庭学習の習慣化が課題である。自主学習ノートの活用や宿題の内容を工夫したり、保護者への啓発を図ったりして、家庭学習を定着させていく必要がある。